

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

山猫は眠らない2 —狙撃手の掟—

配給/ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

2003 (平成15) 年11月5日鑑賞

Data

監督: クレイグ・R・バクスレー
出演: トム・ベレンジャー/ボキ
ム・ウッドバイン/エリカ・
マロジャー

👁️👁️ みどころ

超ロングランの人気マンガ『ゴルゴ13』の「お仕事」はスナイパー。また、スナイパーを主役として登場させた名作映画は、昔は『ジャッカルの日』（73）、そして最近『スターリングラード』（01）。狙撃には集中が必要。そこで思わず観客も身を乗り出してスクリーンに集中……。『狙撃手モノ』と『潜水艦モノ』は共通点があって面白い。さて本作は……？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<原タイトルはスナイパー>

この映画の原タイトルはスナイパー。そしてスナイパーとは、「狙撃手」のこと。『山猫は眠らない』第1作が公開されたのは11年前。そして今再び、そのパートIIが作られたのだ。

スナイパーを主役として登場させた有名なマンガは、何と言っても、さいとう・たかをの『ゴルゴ13』。これは超ロングランの人気マンガで、今なお売れているはずだ。そしてスナイパーが主役として登場する映画は、昔はフランスのドコール大統領暗殺をテーマとした名作『ジャッカルの日』（73年）。そして最近、第2次世界大戦の独ソ連においてソ連とドイツの2人のスナイパーが対決する『スターリングラード』（01年）だ。

<登場人物は3人>

主人公の狙撃手（スナイパー）であるトーマス・ベケットを演ずるのは、当然ながら、前作と同じトム・ベレンジャー。ベケットは優秀なスナイパーだったが、今は退役した元海兵隊員。

アメリカのCIAはヴェルストリア将軍暗殺という特殊任務の実行者として、ベケット

に白羽の矢をあてた。ベケットは、「なぜこんな若いぼれの俺に・・・」と躊躇したが、さすがにプロ中のプロ。腕を見込まれたら引っ込むわけにはいかない。報酬は何でも与えると言われて、ベケットが要求したのは、上級曹長という海兵隊員としての階級の確保だけ。もちろんそれはOKだ。

またベケットのパートナーとして選ばれたのは、黒人の死刑囚のジェイク（ボキーム・ウッドバイン）。スナイパーのパートナーはポッター（観測手）と呼ばれるもの。スナイパーは必ずこのポッターと2人1組で行動する。ポッターは文字通り双眼鏡でターゲットとの距離を測定する役割を担っている。この任務に成功すれば、ジェイクは晴れて自由の身になれるというわけだ。

そして現地で2人を迎え、これを手伝う地下組織のスタッフは、ソフィア（エリカ・マロジャー）という美しい女性。浮かれるジェイクとこれに注意するベケット。スナイパーの絶対条件は、どんな局面においても感情に左右されず、常に冷静沈着状態を保つことだ。



<舞台は？そして狙撃手のターゲットは？>

舞台は旧ユーゴスラビア、セルビアヘルツェゴビナなどの悲惨な民族紛争に揺れるバルカン半島。そしてベケットに与えられた任務はヴァルストリア將軍の暗殺だ。ヴァルストリア將軍は民族浄化という大義名分のもと、イスラム教徒の抹殺作戦を進めていた。この非道なヴァルストリア將軍の動きを阻止するため、CIAは秘かにその暗殺を狙ったのだ。

もちろん失敗は許されない。

アメリカの工作員がヴェルストリア将軍の暗殺を狙って失敗した、などというニュースが全世界に流れることになれば、アメリカの権威の失墜は必至だ。しかし「老いぼれのスナイパー」と「若造の死刑囚」が、その任務の執行者に選ばれた本当の理由は・・・？

<意外な秘密、そしてハラハラドキドキの脱出劇>

映画は、かなり早い段階において3人の共同作業によってヴェルストリア将軍の狙撃に成功！あれ、これで映画は終わりか・・・？と思ったらそんなはずはない。その後、意外な秘密が隠されていた。そのため任務終了後、すんなりと救出へりで脱出するはずの予定が大幅に変更。警備の部隊を市電で突き破ったり、追っ手と派手な銃撃戦を展開したり、国境まで脱出するのは大変。ハラハラドキドキの展開だ。

<スナイパーは映画には面白いテーマ>

スナイパーという「職業は映画向き。なぜならスナイパーには集中力が必要だから、当然映画の狙撃のシーンにも集中が必要。だから観客の目をスクリーンに集中させるには絶好の素材だ。これは「潜水艦モノの映画には傑作が多い」というのと同じ。潜水艦モノは、必然的に狭い空間内の動きに限定されるから、観客の目は必然的にスクリーン上に集中されるわけだ。

もっともスナイパーはしょせん、人の暗殺を目的とするものだから、暗いイメージの「商売」。従ってスナイパーのベケットらによって救出されながら、スナイパーを批判する反体制作家と、スナイパーは人の生命を救う仕事だと反論するベケットとの間の脱出劇の中での議論は興味深い。

登場人物の魅力と状況設定の如何によっては、スナイパーを主役とした名作映画が、これから次々と生まれてくる可能性がある。

是非今後の名作を期待したい。

2003（平成15）年11月6日記